

製造の最適化と コスト競争力のある ものづくり改革と改善の実行

多品種少量生産に伴う生産管理の煩雑化や
属人化など、中小企業から中堅企業への脱皮
を目指す上での課題解消に向け、多様なもの
づくり企業で経験を積んだ研究員が現場の
社員とともに、改善・改革、仕組みづくりを推進
した。



取り組み内容

Step 1
現状把握
と
課題設定

まずはリーダー層にヒアリングし
、生産データの分析を進めつつ、実
際に現場の状況を確認した上で課
題を設定した。

Step 2
改善の
ための
基盤づくり

情報の流れを見直すため、作業指
示書の改善、統一に取り組んだ。現
場には誰もが理解しやすい計画対
比の仕組みを導入した。

Step 3
標準化
・
仕組み化

作業内容を分析し、標準的な作業
時間や人員配置を検討した。作業
の標準化にも着手した。

Step 4
改善範囲
の
拡大

Step2・3の有効性を高めるため、
営業・管理領域の改善・統制に向け
ても取り組みを開始した。

受入企業

アルミファクトリー株式会社 代表取締役 棚元 政夫 さん

1974年創業。産業機械や自動車、医療
機械、建材などで用いられるアルミ加工
品を製作する。アルミ押し出し型材の
切断から加工、組み立てまでを一貫して
対応するところに強みがある。現社長
が15年かけて下請け体質からの脱却を
実現。自社商品（避難所支援商品・軽トラ
ックを移動販売車に変える荷台ボックス
等）の開発にも力を入れている。

協力研究員

高比良 稔 さん

静岡県出身。関東圏において大手産業
機械メーカーをはじめ、自動車、航空
宇宙、医療機器など、複数の業界でキャ
リアを重ねる。また、金型・FA部品商社
で別の角度からものづくりに携わって
きた。品質保証・品質管理領域のほか、
ものと情報を現場で滞りなく流す整流化
を得意とする。

富山“Re-Design”ラボ 事例

CASE:

製造の最適化と
改革・改善による
コスト競争力の強化



取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・生産管理を強化するため、現場の作業ルールや指示の出し方などの見直しと統一化を進めた。仕事の属人化解消に向け、作業や工程の標準化に着手した。
- ・主体的な改善活動を定着・加速させるため、現場の状況を分かりやすく可視化する仕組みを取り入れ、現場の問題をより詳しく把握できるようにした。
- ・整流化を意識し、搬入搬出口の新設なども含めた工場内の動線の見直しも進めていく。

虫 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・中小企業から中堅企業への成長を見据え、生産管理の高度化が必須と考えていました。課題の解決に向けては、経験豊富なプロフェッショナルの力が不可欠であり、昨年参加した富山“Re-Design”ラボで満足できる成果を得られていたことから、再び参加を決めました。

評価（成果・社内変化など）

- ・多品種少量生産による生産管理の煩雑化や属人化、あるいは製造と営業の連携など、改善が急務と考えていた課題に対して、高比良さんが現状を打開するきっかけを作ってくれて助かりました。
- ・得意分野への特化、自社商品への注力に向け、高比良さんには第三者の視点でしっかりと課題を定義していただきました。そのおかげで、課題の解決に向け、目をそらさず向き合うことができるようになり、中堅企業への道筋が明確になりました。
- ・現場の社員同士が話し合う時間が増え、これまで以上に改善策を積極的に検討する雰囲気が生まれました。前向きな変化が社内に浸透しつつあります。

今後の関わり方

- ・最終的には当社の3代目となる専務の判断になりますが、私としては、高比良さんとは何らかのかたちで契約を結び、引き続き、生産現場の改善・改革に向けて、長年ものづくり企業で培ってきたスキルを発揮してほしいと思っています。

人 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・大小さまざまな企業で働く中、直面するさまざまな課題に対して、限られたリソースの中で工夫しながら仕事を進める中小企業は自分の性分に合っていると感じていました。そんなとき、タイミングよく富山“Re-Design”ラボの情報に巡り会い、エントリーを決めました。

評価（取り組み・生活）

- ・外部専門家としてスムーズに受け入れてもらうため、どのような立ち位置で関与するかに気を配りました。社員の主体性を尊重することを心がけ、現場に対して解を示すのではなく、社員自身に何が問題なのかを考えるよう促し、改善に向けて工夫してもらうよう心がけました。また、現場が取り組みやすいよう、アナログの手法も取り入れました。
- ・講義の内容をこれまでの経験に照らし合わせて考えを深めたり、バックボーンの違う研究員と意見交換したりと、想像していた以上に学ぶことを楽しく感じました。富山“Re-Design”ラボは、学びと実践の場を両方提供してもらえる点がユニークで、それぞれにおいて濃密な時間を過ごすことができました。

今後の展望

- ・機会をいただければ、アルミファクトリーが抱えるこの先の課題にも取り組んでいきたいと考えています。以前から地方にはいろいろな意味で大きな可能性があると感じていました。今回縁があつて富山に来たので、今後も富山に軸足を置いて活動していきたいと思っています。